

津村泰範 [長岡造形大学准教授] **沢田伸** [全国ヘリテージマネージャー

ネットワーク協議会運営副委員長] **篠田義男** [篠田義男建築研究所]

Theme

Conservation and Practical Use of Modern Cultural Heritage

近代文化遺産の保存活用を担う職能について考える



アルテ・ピナコテーク (ミュンヘン/レオ・フォン・クレンツェ設計/1836年竣工/ハンス・ドゥルガスト改修設計/1957年竣工)

Schedule

Sunday 22 July, 2018

2018年7月22日[日] 13:30 -

Venue

60th Anniversary Hall, Kyoto Institute of Technology

京都工芸繊維大学 60周年記念館 2階 大セミナー室

Summary

今年度の建築都市保存再生学シンポジウムでは、文化財保護法の改正を踏まえ、近代文化遺産の保存活用について考えてみたい。

都市内には、日々使い続けられている近代建築が多数存在するが、それらの保存活用における課題、それは建物の文化遺産としての価値(オーセンティシティ・守るべき本物としての価値)と建築的性能(日常的に使い続けるための安全性、機能性、快適性など)をいかに両立させるか、というところにある。つまり近代建築を使いながら保存して行くためには、今まで

のような「保存のための修理」だけではなく、現代建築と同等の性能を確保するための「活用するための設計」という行為が必須となるのである。しかし現在の日本の社会では、「保存修理」と「活用設計」を繋ぐシステムが未熟であり、大学の建築教育においても今後の大きな課題である。

今回の保存再生学シンポジウムでは、現在我が国において近代文化遺産の保存・活用に向けて積極的に努力をされている各分野の専門家をお招きし、現在の課題とこれからの展望を語っていただく。

Program

13:30	趣旨説明	田原幸夫 [京都工芸繊維大学 KYOTO Design Lab 特任教授]
13:50	講演1.	津村泰範 「近代建築における保存活用への動きと文化財修理技術者の職能」
14:35	講演2.	沢田伸 「ヘリテージマネージャー ～20年の試行錯誤から見えてきたもの～」
15:20	休憩	
15:30	講演3.	篠田義男 「日本の建築家は近代建築の保存活用に如何に貢献できるのか」
16:15	座談会	津村泰範+沢田伸+篠田義男+田原幸夫+笠原一人 [京都工芸繊維大学助教]
18:00	講師・参加者による懇親会	@プラザKIT(会費制)

京都工芸繊維大学大学院建築都市保存再生学コース 2018
第1回 保存再生学シンポジウム

主催 京都工芸繊維大学大学院建築学専攻・KYOTO Design Lab

後援 日本イコモス国内委員会、DOCOMOMO Japan、日本建築家協会、日本建築士会連合会

全国ヘリテージマネージャーネットワーク協議会、ひょうごヘリテージ機構

定員 | 90名

入場無料

(申込不要、当日先着順)